

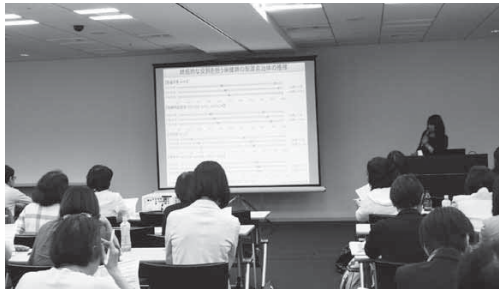
# 全国 保健師長会 だより

## 平成30年度 第1回理事会報告

平成30年4月28日(土)にA.P.東京八重洲通りにおいて理事会が開催されました。議事の主な内容は、次のとおりです。

今年度の活動テーマは、「『未来を創造する公衆衛生看護活動の展開』～みる・つなぐ・動かす」保健師の原点から住民とともに創る未来～」となっており、(1)専門性の高い公衆衛生看護活動の強化 (2)ブロック、支部活動の強化 (3)各自治体における災害対策の取り組みの促進と被災地における保健師活動の発信 (4)会員数の拡大の4項目を柱として活動します。

最重点活動目標は、(1)保健師活動の可視化および質の向上 (2)情



厚生労働省健康局健康課保健指導室長の加藤典子氏による講演

報発信の強化 (3)災害保健活動の推進 (4)市町村の会員拡大の4点です。

ブロック研修は、7月から9月の期間で開催し、研修テーマは会発足40周年記念の年度であるため、会の活動テーマと同様とします。内容は、会の活動説明とスライドショーの上映、研究報告、そして専門性の高い公衆衛生看護活動の強化や活動テーマにつながるもので、講演、グループワーク、実践発表等を実施していただきました。旨の説明がありました。

第40回全国保健師長会代議員総会は、平成30年11月10日(土)に愛知県名古屋市中区で開催を予定しており、総会後、40周年の記念事業として、会の活動紹介スライドショーの上映、歴代会長によるリレートーク、未来に向けたメッセージを開催予定です。

報発信の強化 (3)災害保健活動の推進 (4)市町村の会員拡大の4点です。

ブロック研修は、7月から9月の期間で開催し、研修テーマは会発足40周年記念の年度であるため、会の活動テーマと同様とします。内容は、会の活動説明とスライドショーの上映、研究報告、そして専門性の高い公衆衛生看護活動の強化や活動テーマにつながるもので、講演、グループワーク、実践発表等を実施していただきました。旨の説明がありました。

報発信の強化 (3)災害保健活動の推進 (4)市町村の会員拡大の4点です。

ブロック研修は、7月から9月の期間で開催し、研修テーマは会発足40周年記念の年度であるため、会の活動テーマと同様とします。内容は、会の活動説明とスライドショーの上映、研究報告、そして専門性の高い公衆衛生看護活動の強化や活動テーマにつながるもので、講演、グループワーク、実践発表等を実施していただきました。旨の説明がありました。

# 平成30年度第1回理事会報告および 全国保健師長会40周年記念事業キックオフ講演会

全国保健師長会 会長 青柳 玲子

## 全国保健師長会 40周年記念事業 キックオフ講演会報告

### ■第1部

理事会終了後は、40周年記念事業として、「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」をテーマにお二人の講師を迎えキックオフ講演会を開催しました。



第1回理事会であいさつする全国保健師長会会長の青柳玲子氏

初めに、「地域保健をめぐる国の動きとリーダーに期待すること」と題して、厚生労働省健康局健康課保健指導室長の加藤典子氏よりご講演をいただきました。

まず、地方公共団体における保健師の状況について、全自治体の常勤保健師数は、平成29年度で3万4522人、所属部門は、本庁に勤務する保健師が増えてい

ついで指導する能力」組織目標等に基づき保健師の人材育成体制を整備する能力」の3つの能力が求められている。また、地域全体の健康課題の明確化や優先度の判断、評価の実施や優先度の能力も必要で、さらに、ネットワークおよび効果的な協働体制を構築できる能力も重要であり、その役割を担うことが求められていると述べられました。

し、配置を働きかけていたとのことでした。

このような取り組みを通して市町村保健師に、人材育成や保健師活動に責任を持つ自覚ができた、市町村のOJTと県の集合研修との連動が進んだなどの変化が市町村に見られたとのことでした。

あるため、次期統括保健師の育成と組織の中で位置付けることも進めていただきたいとのことでした。

保健師に期待される役割が増大していく中で、保健師の増員につなげていく必要もあり、期待したいとのことでした。

続いて昨年、統括的な役割を担う保健師に関する調査を実施した結果についての説明がありました。

和歌山県では、通知以降県庁統括保健師の配置を明確化し、統括保健師配置に努めるよう各保健所長および各市町村宛てに県健康局長名で通知したり、配置先調査などを行っていたとのことでした。

まず、市町村で統括的な保健師の配置が進んでいた岡山県と和歌山県に聞き取り調査を行った結果、岡山県では平成25年4月の厚生労働省健康局長通知発出前から、県と市町村で統括的役割を果たす保健師が話し合う場を設定し、役別意識を醸成しており、通知後は、県保健所に統括保健師を配置し、本庁統括保健師が保健所統括保健師と連携して県全体の市町村への統括保健師の配置を目指すことを共有していたとのことでした。また、一部の保健所では、保健所長・担当課長が配置を

次に、統括保健師の位置付けについてのお話がありました。事務分掌に明記された時期は、平成25年に通知発出後増加し、明記内容は「統括」をするという限定的な役割ではなく、市の健康課題を明確にし、健康および保健に関する施策に責任を持つ者として位置付けた市や、役割が拡大していった市もあったとのことでした。

第2部は、「未来を創造する公衆衛生看護活動の展開」保健師に期待するもの」と題して、鹿児島県くらし保健福祉部医療審議監(兼)鹿児島地域振興局保健福祉環境部長(兼)伊集院保健所長の宇田英典氏よりご講演をいただきました。

市町村で統括的な保健師の配置が進んでいた岡山県と和歌山県に聞き取り調査を行った結果、岡山県では平成25年4月の厚生労働省健康局長通知発出前から、県と市町村で統括的役割を果たす保健師が話し合う場を設定し、役別意識を醸成しており、通知後は、県保健所に統括保健師を配置し、本庁統括保健師が保健所統括保健師と連携して県全体の市町村への統括保健師の配置を目指すことを共有していたとのことでした。また、一部の保健所では、保健所長・担当課長が配置を

市町村で統括的な保健師の配置が進んでいた岡山県と和歌山県に聞き取り調査を行った結果、岡山県では平成25年4月の厚生労働省健康局長通知発出前から、県と市町村で統括的役割を果たす保健師が話し合う場を設定し、役別意識を醸成しており、通知後は、県保健所に統括保健師を配置し、本庁統括保健師が保健所統括保健師と連携して県全体の市町村への統括保健師の配置を目指すことを共有していたとのことでした。また、一部の保健所では、保健所長・担当課長が配置を

宇田先生ご自身の地方衛生行政での現場経験から、公衆衛生活動の役割、特性・有効性などに関するお話がありました。

公衆衛生は、多くの健康危機を救い回避できる医学であり、アートであり、組織力や財源を活用し、専門性を発揮し、ネットワーク化によって、さまざまな事業を全国規模で展開することもできるという特性・有用性がある。



鹿児島県くらし保健福祉部医療審議監(兼)鹿児島地域振興局保健福祉環境部長(兼)伊集院保健所長の宇田英典氏による講演

一方、公衆衛生的課題は尽きることがない中で、公衆衛生従事者がそれに見合うだけの知識・技術をブラッシュアップするための、系統的に学習をする仕組みができていない。また公衆衛生の重要性・魅力を発信できていないという課題もあると話されました。さらに、公衆衛生分野で仕事をしている組織は、学会、職能、行政など多いが、方向性は健康水準の向上ということで一致しているものの、立ち位置が微妙に異なり、必ずしも公衆衛生全体の基盤が

強化されている状況でない。課題が多くある中で、責務と権限に対する信頼を確保するためには、方向性を一つにしているだけではなく、従事者全員で基盤を強化し、1+1が3になるような働きかけをしていく必要がある、知識と技術を行動に生かされる資力が不可欠であると述べられました。

最後に鹿児島県出身で初代大警視(現在の警視總監)であった川路利良氏の「聲無キニ聞キ、形無キニ見ル」という格言を紹介されました。この言葉が示すように、潜在する健康課題の「可視化」を図ることは公衆衛生に従事する者の基本的考えであると話されました。公衆衛生は、今後も社会の礎で少子高齢化、人口減少、価値観の多様化が進む中、住み慣れた地域で安心して生活していくことができる社会を維持・構築していくためには、組織的、意識的に、継続的な努力がこれまで以上に必要となる。この努力を具現化していくための人材は、地域をよく知り専門的な視点から評価する能力、そして中立的な立場、コミュニケーション能力、パートナーシップ構築能力がある人材が役割を担えるとの考えを示さ

れました。この立場と能力を有する保健師、特に統括的立場にある保健師の役割は大きいと述べられました。さらに、吉田松陰の「華夷弁別」という格言も紹介され、地域の地道な活動に誇りを持ち、継続してそこに優れた環境を築き、その場で頑張れば、そこが世界を中心になると話され講演を締めくくられました。

(文責：広報委員会)

## ■全国保健師長会40周年記念事業について

平成30年度は、全国保健師長会が発足して40周年を迎えます。その節目の年に次世代を担う保健師が効果的にかつ質の高い活力ある保健師活動を展開できるように、40周年記念事業を実施します。

記念事業のテーマは、「みる・つなぐ・動かす」保健師の原点から住民とともに創る未来」です。このテーマは、全国の会員から公募し選定したもので、いわば皆さまの声の中から生まれたものです。今年度は、このテーマに関連した内容で各ブロック研修会の企画もお願いしています。

記念事業のコンセプトは、「過去を振り返るとともに今の立ち位置を確認し、次の50周年の節目への未来に向けてスタートする」です。代議員総会では歴代会長のリレートーク、会員参加型企画として未来へのメッセージ、記念誌については、30周年から40周年までの特徴的な保健師活動や歴史を集約した内容にしつつ、手に取って読んでもらえるような企画を考えています。

保健師の職域はさらに広がり、どの分野、どのような役割で働くとしても、各自が保健師としてのアイデンティティを持ち、地域に軸足を置いて住民の健康と命を守る保健師活動の原点を忘れないためにも、40周年記念事業テーマを胸に刻み保健師が一体となってこの記念イヤーを盛り上げていただければ幸いです。また、記念事業が会員のみならず次世代のリーダー保健師にも関心を持つてもらえるものになるよう、引き続き取り組んでいきます。各自自治体や保健医療関係者の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

(文責：全国保健師長会40周年記念事業特別委員会委員長 濱野芳江)